

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「柏原東高校の教育力」と「柏原地域連携型中高一貫教育」による教育活動を展開することで地域や社会に貢献できる人材を育成し、生徒・保護者・地域から愛され、信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、自立できる生徒を育成する学校
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じて、豊かな人間性を育む学校
- 3 地域とともに歩み、地域に愛される学校

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成

(1) 授業改善と授業力の向上を図ることによって「わかる授業」を展開し、多様な進路を実現するための基礎学力の定着と実践学力の獲得に取り組む。

ア 授業アンケート、学校教育自己診断に対する分析を通して課題の発見、改善策の策定によって授業改善をすすめる。

※授業アンケート（9項目の学校平均）の肯定的評価を令和2年度には年2回の平均81%以上にする。(H29 77.9%、H30 77.8% R1 80.7%)

※学校教育自己診断の授業理解度を令和2年度には生徒46%以上にする。(H29 42.0% H30 43.9% R1 45.8%)

イ 「B-up タイム」(Brush up タイム)による「基礎学力定着」と「特別進学コース」による「実践学力獲得」を継続・発展させる。

※令和2年度（最後の卒業生）において学校斡旋就職内定率100%を達成し、9年連続とする。

ウ 文部科学省が提唱する「高校生のための学びの基礎診断」として「基礎力診断テスト」を実施する。

2 中退・不登校の未然防止

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を構築する。

ア 「厳しく寄り添う」生徒指導を継続する。

※年間遅刻者・欠席者総数を5%縮減する。

※学校教育自己診断の生徒指導納得・共感度を令和2年度に生徒35%以上(H29 40.3% H30 37.0% R1 34.0%)、保護者71%以上(H29 72.1% H30 70.9% R1 70.4%)にする。

※学校教育自己診断の規範意識度を令和2年度に生徒86%以上(H29 85.7% H30 83.4% R1 85.0%)、保護者86%以上(H29 87.0% H30 85.8% R1 85.8%)にする。

※支援の必要な生徒に対する個別の支援・指導計画を令和2年度まで100%作成する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を工夫し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※学校教育自己診断における学校満足度を令和2年度には生徒62%以上(H29 63.3% H30 61.3% R1 61.7%)、保護者87%以上(H29 85.9% H30 84.5% R1 86.1%)にする。

※学校教育自己診断における学校行事満足度を令和2年度に生徒56%以上(H29 67.7% H30 66.4% R1 55.8%)、保護者73%以上(H29 67.5% H30 80.9% R1 72.6%)にする。

※学校教育自己診断における達成感を令和2年度には生徒69%以上(H29 74.7% H30 70.5% R1 68.3%)、保護者90%以上(H29 81.6% H30 89.6% R1 89.9%)にする。

※学校教育自己診断における人間的成長感を令和2年度には生徒72%以上(H29 68.7% H30 64.6% R1 71.3%)、保護者86%以上(H29 81.9% H30 82.3% R1 85.5%)にする。

3 開かれた学校づくりの推進

(1) 地域に根付いた柏原地域連携型中高一貫教育体制を閉校まで維持する。

ア 連携授業（書写・書道）の維持を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。

※中学校生徒向け連携授業アンケートにおける満足度、理解度の高い評価を維持する。(H29 97.8%、98.6% H30 93.0%、94.0% R1 中学休校のため実施できず)

イ 八尾翠翔高校との機能統合をすすめる中で、大阪教育大学との5回目の国際交流事業を実施する。

ウ HP やメルマガによる本校の教育活動の情報発信を継続するとともに、地域の防災活動の拠点としての役割を担う。

※学校教育自己診断（保護者）における情報提供を令和2年度には77%以上にする。(H29 69.5% H30 72.5% R1 76.2%)

※教職員学校教育自己診断における情報発信を令和2年度には83%以上にする。(H29 73.0% H30 76.0% R1 82.3%)

4 教職員の資質向上

(1) 教職員の人権教育推進に対する意識向上を図る。 ※教職員学校教育自己診断における人権教育を令和2年度には60%以上にする。(H29 61.0% H30 58.7 R1 58.8%)

(2) 勤務時間管理、健康管理に対する教職員の意識改革を図ることによって「働き方改革」を進め、教職員による効果的な教育活動を促進する。

※教職員の時間外在校時間を5%縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>*アンケート回収率 生徒100%、保護者100% (以下の数値 R1 % → R2 %)</p> <p>①学校への満足度 生徒62%→69%○、保護者86%→86%○</p> <p>②人間的成長 生徒71%→77%○、保護者86%→89%○ これまでの学校生活を通して、多くの生徒が自らの成長を実感している。保護者も我が子の成長に高い肯定感を示している。</p> <p>③授業理解度 生徒46%→53%○ 生徒は自らの進路実現に向けてしっかり取り組むことができるようになり、授業に対する意識も良い方向に変化してきた。教員の授業改善への取組みが成果を出している。</p> <p>④学校生活の充実度 「自分は学校で頑張っている」 生徒71%→54%△、保護者86%→92%○ 「学校は楽しい」 生徒67%→68%○、保護者70%→71%○ 「学校行事は楽しい」 生徒56%→74%○、保護者76%→86%○ 最終の体育祭の直後に取ったアンケートということもあり、行事に対する高い肯定感が示されている。多くの生徒・保護者が柏原東での学校生活を充実したものとらえている。</p> <p>⑤進路指導について 「進路や趣味にあった科目が選べる」 生徒53%→53%△、保護者60%→56%△ 「進路や職業についての情報を十分に提供している」 生徒68%→78%○ 「進路や職業について適切に指導している」 保護者78%→84%○ 3年生となって進路に対する関心が高まるとともに、本校の進路指導に信頼を寄せるようになったことが数値の向上に表われている。</p> <p>⑥教職員の結果 生徒数、教職員数が減少して学校規模が小さくなったことから、教職員間のコミュニケーションが積極的に図られるようになり、生徒への指導、アプローチが一層丁寧に行われるようになった。19項目中17項目において昨年度の数値を上回ったことがそれを示している。</p>	<p>第1回 令和2年8月5日(水) 14:00~15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動で兼部をしながらみんなで活動しているという姿が良い。「夢をかなえる3年生」に向けて教員が筋道を付けて頑張っていることが想像できる。コロナでいろいろな活動が制約され残念だ。 ・柏原東の良いところは、教員が生徒たちとしっかり向き合い生徒たちもそれを感じ取っているところだ。その関係が「いい学びの場」になっている。 <p>第2回 令和2年12月25日(金) 書面開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期的目標の4項目すべてにおいて定量的にも定性的にも着実に成果を上げている。求人数が減少する中、一次内定率が73.3%という高い成果を上げている。 ・確かな学力の定着に向け、着実に成果を上げている。それぞれの取り組みの目的が、教員と生徒の間でしっかり共有されている。 ・柏原東の教育力は素晴らしい。人として信頼される人間力のある人材を育てている。 ・3年生のみの体育祭だったが、生徒たちの一生懸命さ、団結力に感動した。 <p>第3回 令和3年2月26日(金) 書面開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期的目標のすべてにおいて顕著な成果をあげている。特に、授業改善・出席状況の改善・進路保障における成果は大きい。教職員の教育に対する強い情熱を感じる。 ・地域に根差す出身校の存在は、社会で活躍するうえで基礎基本になるものだ。その上で、柏原東には大きな勇気と自信をいただいた。 ・コロナ禍における教職員、生徒の頑張りがアンケート結果の高評価につながっている。 ・制約の多い中で、アンケートの結果が向上していることは素晴らしい。教職員の皆さんには、柏原東での経験を活かし、次の赴任校でも頑張っていたいただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	<p>(1) 授業改善と授業力の向上による基礎学力定着と実践学力獲得</p> <p>ア 課題の発見、改善策の策定による授業改善</p> <p>イ 「B-up タイム」と「特別進学コース」の発展</p> <p>ウ 学びの基礎診断</p>	<p>ア・授業アンケート、学校教育自己診断から明らかになった課題を学校全体で共有するとともに、学年・分掌・教科における検討を組織的に行うことにより、評価活動と授業改善の有機的結合を促す。</p> <p>・各分掌・学年が学校教育自己診断結果を分析し、目標と具体的施策を設定することによって、PDCA サイクルに沿った実効性ある取組みとする。</p> <p>イ 「B-up」と「特進」の取組みを学校組織の施策とする。</p> <p>ウ 基礎力診断テストを活用する。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの分析、授業改善シート提出の100%維持。(令和元年度100%)</p> <p>・分掌、学年の方針、総括を学校教育自己診断のPDCA サイクルに結合させる。</p> <p>・授業アンケート肯定的評価の2回の平均(令和元年度80.7%)を維持・向上させる。</p> <p>・学校教育自己診断の授業理解度(令和元年度生徒45.8%)を46%以上にする。</p> <p>イ・B-up、特進を進路指導部の業務として継続させる。</p> <p>・最終学年の学校幹旋就職内定率100%を達成し、9年連続とする。</p> <p>ウ・第2学年において2回の診断テストを実施する。</p>	<p>ア・教員による授業アンケートの個人分析、授業改善シート提出100%達成。アンケートの有効活用と授業改善により、生徒の評価が向上した。(◎)</p> <p>・すべての分掌、学年が方針を立て総括を行った。教職員自己診断における学校評価活用に対する肯定的評価も42.9%(8.8%)と大きく上昇した。(◎)</p> <p>・授業アンケート肯定的評価82.4%(◎)</p> <p>・生徒自己診断 授業理解度53.1%(◎)</p> <p>保護者自己診断の理解度においても59.6%(52.2)と評価が向上した。</p> <p>イ・B-up、特進を効果的な進路指導に結び付けることができた。(◎)</p> <p>・進学：畿央大学教育学部(1名)</p> <p>*司法試験合格(37期生1名)</p> <p>・学校幹旋就職内定100%：9年連続(○)</p> <p>ウ第2学年で2回のテストを実施。(○)</p>
2 中退・不登校の未然防止	<p>(1) 生徒の規範意識を醸成、個々の生徒への支援体制を構築する。</p> <p>ア 「厳しく寄り添う」生徒指導を継続する。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を工夫し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。</p>	<p>(1) ア・生徒、保護者に対し、生徒指導の趣旨、方針を丁寧に説明するとともに、PR活動の工夫に取り組む。</p> <p>・全教員による登下校指導を継続実施し、生徒の安全確保、遅刻者数縮減の取組みを続ける。</p> <p>・日常的な生徒把握と情報共有、保護者連絡、家庭訪問によって長期欠席者、中途退学者を出さない取組みを続ける。</p> <p>・支援教育委員会の充実により効果的な指導を実施する。</p> <p>・教育相談委員会を毎週定期的に開催し、課題を抱える生徒を学校全体でサポートするとともに、SCの活用により教育相談活動(カウンセリング)の効果を最大限に引き出す。</p> <p>(2) ア・柏原東マップ沿った体育祭を教育活動の基軸とする教育活動を進めるとともに、満足度の高い学校行事を行う。</p> <p>・中高大の連携、八尾翠翔高校との機能統合をすすめる中で、工夫ある生徒会活動、部活動を実践する。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻者・欠席者総数を各学年とも5%縮減する。</p> <p>・学校教育自己診断の生徒指導納得・共感度(令和元年度生徒34.0%、保護者70.4%)を上昇させる。</p> <p>・学校教育自己診断の規範意識度(令和元年度生徒85.0%、保護者85.8%)を上昇させる。</p> <p>・支援の必要な生徒に対する個別の支援・指導計画を100%作成する。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の学校満足度(令和元年度生徒61.7%、保護者86.1%)を上昇させる。</p> <p>・学校教育自己診断における学校行事満足度(令和元年度生徒55.8%、保護者72.6%)を上昇させる。</p> <p>・学校教育自己診断における達成感(令和元年度生徒68.3%、保護者89.9%)を上昇させる。</p> <p>・学校教育自己診断における人間的成長感(令和元年度生徒71.3%、保護者85.5%)を上昇させる。</p>	<p>(1) ア・遅刻・欠席：17.8%増・6.0%減(△)</p> <p>・自己診断の生徒指導納得・共感度：生徒36.3%、保護者68.7%と保護者は目標に達しなかったが、同一学年の比較では生徒8.4p、保護者2pの上昇。(○)</p> <p>・自己診断の規範意識度：生徒83.4%、保護者83.1%と保護者は目標に達しなかったが、同一学年の比較では「よくあてはまる」が生徒5.6p、保護者5.0pの上昇であった。(○)</p> <p>・支援を要する生徒の個別の支援・指導計画を100%作成。進路実現に結び付けることができた。(◎)</p> <p>(2) ア・自己診断における学校満足度：生徒68.7(◎)、保護者86.3(○)</p> <p>・自己診断における行事満足度：生徒73.5(◎)、保護者85.3(◎)</p> <p>すべての行事において生徒・教師が最後にふさわしい取組みをした成果。</p> <p>・自己診断における達成感：生徒54.3(△)、保護者92.3(◎)</p> <p>自己評価は低い保護者は高く評価。</p> <p>・自己診断における人間的成長感：生徒77.3(◎)、保護者88.6(◎)</p> <p>*部活関係では少人数でも意欲的に取り組んだことから高く評価。自己診断：生徒42.4%(35.4)、保護者57.7%(55.1)</p>
3 開かれた学校づくりの推進	<p>(1) 地域に根付いた柏原地域連携型中高一貫教育体制を閉校まで維持する。</p> <p>ア 連携授業(書写・書道)の維持を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。</p> <p>イ 八尾翠翔高校との機能統合をすすめる中で、大阪教育大学との国際交流事業を実施する。</p> <p>ウ HP やメルマガによる本校の教育活動の情報発信を継続するとともに、地域の防災活動の拠点としての役割を担う。</p>	<p>(1) ア・柏原市立中学との連携を維持するとともに、活力ある部活・行事・生徒会活動を継続していく。</p> <p>・教科教育指導、初任者指導、生徒指導、保健指導などの分野で中高教員の交流・連携を図る。</p> <p>(2) ア・大阪教育大学留学生との国際交流会を継続させる。</p> <p>イ・本校ホームページ、校長ブログのデータ更新、メルマガによる情報発信について質量ともに向上させるとともに、在校生、中学生、保護者や地域が必要とする情報の提供に努める。</p> <p>・より多くの教職員が情報発信に関わるような活動にする。</p>	<p>(1) ア・中学校生徒向け連携授業アンケートにおける満足度、理解度(平成30年度93.0%、94.0%、令和元年度は中学休校のため実施できず)の高評価を維持する。</p> <p>・柏原市内中学校教員と本校教員の交流を実施する。</p> <p>(2) ア・八尾翠翔高校で開催される国際交流会(文科系クラブを中心とした文化交流)に参加する。</p> <p>イ・閉校後にに向けた情報提供のために、メモリアルホームページを新たに作成する。</p> <p>・学校教育自己診断における情報発信(令和元年度 保護者76.2%)を上昇させる。</p> <p>・教職員学校教育自己診断における情報発信(令和元年度82.3%)を上昇させる。</p>	<p>(1) ア・連携授業(書写)を維持することができた。部活・行事・生徒会の連携は感染予防のため実施せず。</p> <p>・中学校生徒向け連携授業アンケート満足度94.9%、理解度97.1%(◎)</p> <p>・柏原市内中学校教員との交流は感染予防のため実施せず。(一)</p> <p>(2) ア・国際交流会は感染予防のため実施せず。(一)</p> <p>イ・閉校後のメモリアルホームページを完成させ、閉校後の情報提供の準備を整えた。(○)</p> <p>・保護者自己診断における情報発信に対する肯定的評価は6.8ポイント増の83.0%と大きく上昇した。(◎)</p> <p>・教職員自己診断における情報発信に対する肯定的評価は12.9ポイント増の95.2%と大きく上昇した。(◎)</p>

府立柏原東高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 教職員の 資質向上</p>	<p>(1) 教職員の人権教育推進に対する意識向上を図る。 (2) 「働き方改革」を進める。</p>	<p>(1) 人権教育推進のための教職員研修を通じて「人権マップ」の徹底と意識向上を図る。 (2) 働き方に関する教職員研修や教職員向けメルマガの活用によって教職員の意識改革を進める。</p>	<p>(1) 教職員学校教育自己診断における人権教育(令和元年度 59%)を上昇させる。 (2) 学校閉庁日、一斉退庁日の取組みに対する保護者の理解を促すとともに、教職員の時間外在校時間の5%縮減を実現する。</p>	<p>(1) 人権マップに沿った人権教育を進めたことに加え、教職員研修の成果が評価され、自己診断では12.4ポイント増の71.4%となった。(◎) (2) 時間外在校時間 20.9%縮減 (◎) (令和3年2月末現在)</p>
--------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------